

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

ベネッセ板橋保育園

板橋区板橋 1-55-16

ビュークロッシング2F

株式会社 ベネッセスタイルケア

1. 活動テーマ：土・砂 対象児：3, 4, 5 歳児

<テーマの設定理由>

当園は駅前のビルの一角にあり、日常で子ども達が自然に触れることが少ないため、砂や土に対する抵抗感がある子が少なくない。今年の春に、散歩でどろんこ遊びの出来るプレーパークに出かけたが、土を触ろうとしない子がほとんどであった。また、保育者自身も砂遊びの経験が少ないのか、日々の保育に積極的に砂遊びを取り入れようとする現状がある。

砂は子どもにとって、身近で気軽に触れられる自然素材である。

砂は水分量によって形状が分かりやすく変化する。手のひらにのせた乾いた砂が水分の違いや力の入れ具合で変化していく様を肌で感じ、砂と対話するように調整していきながらだんごを作る。砂山にトンネルを掘ろうとしたら、突然山が崩れてしまう。どうすればトンネルを開通させることができるのか。砂山の固まり具合、穴の大きさ、掘る角度・・・子ども達は考え試していく。そうした過程でこどもは遊びながら、熱中し、自然への探求の心が育っていく。

そこで、本園では「土、砂」をテーマにした。

まずは、砂や土を身近に感じる環境づくりを行い、存分に遊べる環境づくりを行い、そこで存分に遊ぶ経験を重ね、土や砂に対する興味や関心を高め、土や砂の性質を感じながら、探求心を育てていくことをねらいとする。

※参考文献「砂・砂・砂 SAND～「砂の遊びとアート」と保育 笠間浩幸 星雲社

2. 活動スケジュール

① 砂遊びの講師を招き、砂遊びのワークショップを2回行う。

1回目：学年ごとの発達年齢に合わせた砂遊び

2回目：年長のみ参加で、土の性質についてのお話を聞く

光沢のある泥団子づくり

② 園庭に井戸の形のポンプと土遊びの出来るコーナーを設置し積極的な土遊びを行う

③ 砂遊びの園内研修をスタッフ向けに行う

3. ◎活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ① 1回目・砂場遊び道具（バケツ、スコップ、シャベル、極太水道管）
2回目・泥団子 ・材料キット
- ② ・荒木田土 ・土を入れるコンテナ
・ガチャポンプ（井戸の形の水くみポンプ）

- ① 1回目 砂遊びの講師を招き、砂遊びのワークショップを2回行う。
「ドロシー先生あらわる！」



ドロシー先生が持ってきた
光沢のあるつるぴかどろだ
んごを見て、
「えっ石じゃないの？」
「どうしてこんなにかたい
の？」
「つくってみたい！」



「砂や土っていろんなもの
作れるんだよ！
秘密兵器の道具もあるよ！」
ドロシー先生が持ってきた、
「こて」や極太水道管を
使って・・・何ができるかな。
水の量で、硬さが全然違うこと。
“こて”でたたいて空気を抜くこと。
簡単にお話のあと、さあ、遊ぼう！



3歳児は個々に遊んで、
4, 5歳児は協同しながら
遊びました。
年齢発達によって遊び
方がちがってきます。
「お城の階段、こてを使
うと便利だよ。」

2回目：年長のみ参加で、土の性質についてのお話を聞いた後、光沢のある泥団子づくり

- ・ドロシー先生が持ってきた光沢の泥団子のキット。チャレンジクラスの子ども達と泥団子を作りました。まずは、だんごを作り、手の平でコロコロ回してきれいな球体にしていき、その球体を丁寧に磨いていきます。そこでドロシー先生が出したのは、またまた秘密兵器の牛乳瓶。

瓶の底にだんごをおいてゆっくり回していくことで、こまかい粒子がそがれていきます。「ほんとだ！音がする？」瓶に耳を近づけ、小さな音を聞いています。

- ・磨かれてきただんごを上にかざすと、光が反射して見えます。「光ってきた！」気づくと誰も飽きずも2時間近く熱中して取り組んでいました。



「光ってきた！」



② 園庭に井戸の形のポンプと土遊びの出来るコーナーを設置し積極的な土遊びを行う



保育園のある屋上に小さいながらも園庭と砂場があるので、そこを活用してどろんこ遊びの出来る環境をつくる。

砂場のすぐ近くに水場をつくるため、昔の井戸に似た形状のポンプを設置。また、荒木田土を入れたコンテナを砂場の隣に設置した。水道管などいろんな種類の砂遊び玩具も追加した。



土に触れることに消極的だった子ども達が、裸足でどろんこ遊びを楽しむようになってきました。

井戸の形状のポンプは、遊びたい気持ちをより高め、砂遊びのきっかけになっています。

③ 砂遊びの園内研修をスタッフ向けに行う

本園での課題のひとつに、保育士自身の砂場遊びに対する意識の低さがある。砂遊びが幼児期の様々な面で発達を促す遊びであることを理解するため、子ども支援担当の保育士が中心となり園内研修を行った。

最初に前述の「砂・砂・砂 SAND～「砂の遊びとアート」と保育」の資料を元に、子どもの成長・発達に合わせて変化していく「砂遊び」の特徴（系統的視点）と「感覚」「認知」「創造と想像」など10の発達の視点から、砂遊びを捉えていった。

その後、保育士全員で子どもの心になって砂遊びを行った。山や川を作ったり水を流している中でおもちゃの取り合いをしたり、隣の人の作った山をこわしたり、遊んでいる途中で、急に「片付け」と言われて嫌々かたづけたりなど。

～スタッフからの感想と気づき～

「山をこわしたら、気持ちよかった。友達のを壊したら、いじわる、と捉えてしまうが、友達のを壊す子は、「つくる」より砂の感覚を楽しむ段階なのだと分かった」

「友達におもちゃを急に取られるのはすごく嫌だった」「面白くなった時に急に先生に片づけ、と言われるのはすごく嫌だった」⇒小さい子には十分な数の玩具が必要ということ？⇒遊びを楽しんでいるから片付けたくない。片づけ、と言われてすぐ片づけられるのは、逆に遊びこんでないから？

◎振り返り

今回、「土、砂」をテーマに、活動を含め遊び環境を作ったことにより、子ども達は確実に積極的に砂遊びやどろんこ遊びを楽しむようになり、大きな効果を感じている。

子ども達は、日々の遊びのなかで、砂、土という非常に身近な自然物の、感触を肌で感じ、その様相の変化に気づき、水の加減、力の加減、大きさ、深さなどの加減を自分なりに調整していく。そのなかで、子どもなりの気づきや感動、疑問が生まれ、それが探求心へとつながっていく。

しかし、人の探求心は一朝一夕で育つものではない。こどもの探求心を育てるには、日々の子どもの遊びをともに楽しみ、ともに感じ、子どものつぶやきに耳を傾け、ともに考え、答えに向かってともに追求していく身近な大人の存在が非常に重要であることをあらためて感じている。

本園の「砂・土」をテーマのすくわくプログラムはまだまだ準備段階である。次年度は、より保育者が積極的に砂遊びを活動に取り入れ、子ども達の探求心を育てる取り組みをしていきたい。